

平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果分析 京都市立西院中学校

【国語】

国語 Aにおいて、「話す・聞く能力」「言語についての知識・理解・技能」の領域別正答率は京都府平均・全国平均を上回った。しかし、「書く能力」「読む能力」については京都府平均・全国平均を下回る結果であった。特に『文章の要旨を捉える』、『場面の展開や登場人物描写に注意して読み、内容を理解する』ことを問われる問題には課題が残った。

国語 Bにおいては全てにおいて、領域別正答率は京都府平均・全国平均を上回った。中でも『目的に応じて資料を効果的に活用して話す』という趣旨の問題は正答率が全国平均を大きく上回っており、日常の授業の中での取り組みが結果として表ってきたように思う。ただし、『登場人物の言動の意味を考え内容を理解する』といった読む能力を必要とする問題については、十分な記述ができていない。

今後、授業あるいは家庭学習において、下記のような点を考慮に入れながら取り組んでいく必要があると思われる。

【課題克服の試み】

- ①学校で学ぶ漢字を含む、常用漢字の反復練習。(言語の知識)
- ②国語科だけでなく、あらゆる機会に(道徳や他教科においても)感想文やレポートなどを書く活動に取り組む。(書く)
- ③教科書以外の文章(新聞記事等)を進んで読み、要点を抜き出したり、まとめたりする。(読む)
- ④自分の意見を「話す」「書く」課題の中で、適切な言葉が使えるよう語彙を増やす。(言語の知識)
- ⑤自分の考えを述べる際、相手により伝わる語彙を選択し、構成を考える。(話す)

【数学】

数学 Aについては数と式、図形、資料の活用の領域において全国・京都府の平均を上回りました。関数の領域は全国・京都府の平均を下回りました。全体の正答率としては全国・京都府の平均を上回りました。継続的に毎授業の中で基礎・基本となる問題の演習を反復した結果、知識が定着したと思われます。

数学 Bについては関数の領域において全国の平均を上回りました。他の領域(数と式、図形、資料の活用)については全国・京都府の平均を下回りました。全体の正答率としては全国・京都府の平均を下回りました。筋道を立てて考え、答えを出す過程を説明することを授業で重点的に指導し、校内の定期テストにも取り入れた結果、記述式の図形の証明問題は京都府・全校の平均を上回りました。

【課題克服の取り組み】

『基礎・基本が定着していない→授業が分からない→数学が嫌い→学習に取り組まない』といった負のスパイラルに陥っている生徒がいることが少なからずいることが課題である。全員が授業に参加するためには、①基礎・基本を定着するために問題演習徹底的に行う授業 ②数学的活動を取り入れ、主体的に考えながら、生徒同士でアイディアを出し合い、学びを深めていくような授業 を各単元バランスよく、計画的に展開していく必要があると思います。